

第14回定例岡山県教育委員会議事録

- 1 日 時 平成30年12月21日（金）
開会14時00分 閉会15時03分
- 2 場 所 教育委員室
- 3 出席者
- | | |
|--------------|------------|
| 教育長 | 鍵本 芳明 |
| 委員（教育長職務代理者） | 上地 玲子 |
| 委員（教育長職務代理者） | 中島 義雄 |
| 委員 | 松田 欣也 |
| 委員 | 梶谷 俊介 |
| 委員 | 田野 美佐 |
| 教育次長 | 日比 謙一郎 |
| 教育政策課 | 課長 中本 正行 |
| | 副課長 細川 誠 |
| | 総括主幹 間野 良一 |
| 高校教育課 | 課長 藤岡 隆幸 |
| 保健体育課 | 課長 山本 圭司 |
- 4 傍聴の状況 0名
- 5 報告事項
- (1) 優良実践発表会及び私たちの高校「コレぞ自慢のオンリーワン」事業について
 - (2) 高校生と県内企業の交流促進事業について
 - (3) 平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について

6 議事の概要

開会

非公開案件の採決

(教育長)

本日の議題の審議に入る前に、議題の公開の可否について決定したい。

委員から、議題を非公開とする発議はないか。

(委員全員)

(特になし)

(教育長)

特にないようなので、直ちに審議に入る。

報告事項(1) 優良実践発表会及び私たちの高校「コレぞ自慢のオンリーワン」事業について

・教育政策課長から資料により一括説明

(委員)

私たちの高校「コレぞ自慢のオンリーワン」事業について、主な取組テーマは、あらかじめ県教委が6つのテーマを示し、その中から各学校に選んでもらったのか。

(教育政策課長)

そうではなく、本事業は学校がそれぞれ自慢のオンリーワンを自ら発掘し、アピールするものであり、各学校の取組を大まかに分類すると結果的に6つのテーマになったということである。

(委員)

情報発信の方法について、各種広報誌への掲載を依頼とあるが、どのような広報誌を考えているのか。

(教育政策課長)

市町村が発行している市民だよりへの掲載を依頼しているところであり、中学生や保護者に地元の高校のことをもっと知ってもらいたいと考えている。

(委員)

取組内容は各学校の教員が作成したのか。

(教育政策課長)

そうである。

(委員)

教員が作成するよりも、生徒が自分たちの高校の魅力を考え、発信する方が、特に中学生には分かりやすいかもしれない。

(教育長)

本事業のように、一つのテーマに対して複数の取組が紹介できればメディアに取り上げてもらいやすいと思うので、情報発信にあたり、県教委の広報担当にもそうした視点をもって仕事をしてもらいたい。

(委員)

本事業に市町村教委は関わっているのか。

(教育政策課長)

関わっていないが、広報する段階で協力をお願いしたいと思っている。

(委員全員)

了 承

報告事項(2) 高校生と県内企業の交流促進事業について

・高校教育課長から資料により一括説明

(委員)

本事業は県教委が主催なのか。

(高校教育課長)

そうである。

(委員)

労働局や産業労働部は協力していないのか。

(高校教育課長)

就職を希望する生徒に対する説明会などは連携して行っているが、本事業については県教委で行っている。

(委員)

将来の地元定着やUターン就職を県内全体で推進するためにも、縦割りではなく、関係部局等としっかり連携し、同様の取組を行っている自治体とも情報交換しながら進めてもらいたい。

(委員)

本事業は、企業の事業内容だけでなく、経営姿勢なども知ることができて良いと思う。生徒の感想にもあるように、様々な分野・規模の企業を加えてもらいたい。

(高校教育課長)

市町村が独自に行っている高校生と企業の交流との棲み分けもしながら、今回参加した生徒や企業担当者の意見も踏まえ、県教委の事業として今後どのように進めていくべきか考えてまいりたい。

(委員)

高校卒業後、地元を離れて大学等へ進学した者がどのくらいUターン就職で地元に戻ってきているか実態を把握しているか。

(高校教育課長)

把握できていない。

(委員)

きちんと数値で把握すべきである。

(教育長)

委員ご指摘のとおり、データに基づき、施策の効果を検証するとともに、さらにそのデータを今後どう活用していくか、計画的に考えていかなければならない。

(委員)

本事業はどのくらいの参加生徒数を見込んでいたのか。

(高校教育課長)

300名程度の参加を見込んでいたが、実際はその半数程度であった。

(委員)

時期的に参加しにくい面があったのかもしれないので、来年度は時期を分けて回

数を増やすなど、高校生が参加しやすいものにしてもらいたい。

(委員全員)

了 承

報告事項(3)平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について

・保健体育課長から資料により一括説明

(委員)

市町村別の体力合計点にある程度の差があるが、理由は何か。

(保健体育課長)

詳細な分析はできていないが、例えば小中学校の男女すべてで体力合計点が高い新見市では、スポーツ少年団の活動が充実していることがその理由の一つだと思われる。今後詳細に分析し、効果的な取組等を普及してまいりたい。

(委員)

総合評価でA評価の児童生徒はAバッジをもらえるが、もらった児童生徒は名札などに付けて分かるようにしているのか。

(保健体育課長)

必ず付けることにはなっていない。Aバッジは、児童生徒のモチベーションを高めることには役立っているものと認識している。

(委員)

A評価の児童生徒の割合はどうか。

(保健体育課長)

今年度は小5男子の15%、小5女子の16%、中2男子の11%、中2女子の36%である。

(委員)

バッジとは別に表彰状などはないのか。

(保健体育課長)

すべてではないが、表彰状を渡している市町村もある。

(委員)

全校集会などの全体場で表彰することで児童生徒のモチベーションがより高まると思うので、そうしたことも検討してもらいたい。

(教育長)

小学校女子の体力合計点が昨年度に続き、全国平均より低くなっているが、原因は何か。

(保健体育課長)

明確な原因はつかめていないが、小学校女子については、全国平均が上がってきている中、本県は下がっており、危機感を持っている。今後詳細に分析し、しっかり対応してまいりたい。

(委員全員)

了 承

閉会